

# 私の一文字

グローバルサウス・アフリカ委員会  
委員長  
**渋澤 健**

シブサワ・アンド・カンパニー  
代表取締役



## 「と」の力でより良い社会を創る

会員の方が思いを込めて選んだ一字に、書家の岡西佑奈さんが命を吹き込む「私の一文字」。今回は、渋澤健グローバルサウス・アフリカ委員会委員長にご登場いただきました。

**岡西** この文字を選ばれた背景を教えてください。

**渋澤** 私の祖父の祖父である渋沢栄一の代表的な著書に『論語と算盤』があります。実は2008年ごろに新浪現代表幹事からの声掛けがあって勉強会を始めたのですが、そこから今年で16期を迎える経営塾へと展開し、「と」の大事さに気付いたのです。仮に「論語か算盤」と、「か」を使うと選別をする意味となります。選別は効率を上げる上では大切ですが、「か」だけでは新しいイノベーション・クリエーションはありません。他方「と」には、一見関係ないものを合わせて新しい価値をつくる力があります。簡単ではないけれど、とても大事なことだと思っています。

**岡西** 「と」は漢字の「止」が由来ですが、実はもともと、進むという意味合いが含まれていたのです。今回はそのニュアンスを一筆書きで表現してみました。ご自身は昔から渋沢栄一さんという存在を意識されていたのでしょうか。

**渋澤** 認識はありましたが、小学生のときから海外に住み、帰国後も外資系の金融機関などに勤めていたので、彼の世界観には特に接点もなく過ごしていました。子孫に一株も残してくれていないと思っていましたが(笑)、ただ40歳ごろに気付いたのです。言葉という素晴らしい財産を残してくれていたと。今の時代に解釈して使える言葉がたくさん

あります。さらに、論語だけでも算盤だけでもなく、両方合わせる「と」の考え方自体がサステナビリティを表すのではないかと思うようにもなりました。

**岡西** 私も会社を立ち上げたときに『論語と算盤』を手にとったのですが、この両立には難しさも感じます。

**渋澤** 簡単ではないですが、絶対に必要なのは主体性とイマジネーションです。イマジネーションを持っているのは人間だけだと生物学者から学びました。またAIは過去からの蓄積で考えますので、飛躍した将来への思考は持っていません。飛躍した状態と現実をつなげられるのが人間力であり、そこで使われるのが「と」の力だと思っています。さらにより良い社会を実現させようと多様なセクターがつながる共助資本主義も、「と」の力が働く場面だと捉えています。

**岡西** 最後に、経済同友会で担当されているグローバルサウス・アフリカ委員会について教えてください。

**渋澤** アフリカは距離としても意識としても日本からは遠いかもしれませんが、今後人口増加が加速するエリアです。日本は昭和時代のMade in Japanで豊かさを築き、平成時代はかなたの国でMade by Japanへと展開しようとしてきました。しかし必ずしも国際社会での存在感は高まらず、人口減少を迎えている状況です。そうした中で、令和時代の豊かさはMade with Japanを進めることで得られるのではないかと私は思っています。「と」の登場です。アフリカ各国、さらには世界各国が日本と共に豊かな経済社会の価値をつくろうとってくれることが、日本の豊かさにつながるのではないかと。つまり、「成長と分配の好循環」という「と」のグローバル展開です。



書家  
**岡西 佑奈**

1985年3月生まれ。23歳で書家として活動を始め、国内外受賞歴多数。